

080

contents

常設特別展示

生誕90年記念

香月泰男「シベリア・シリーズ」全作品展

特別展

ZENGA 帰ってきた禅画

—アメリカ ギッター・イエレン夫妻コレクションから—

展覧会予告

年間スケジュール

天花

TENGE



香月泰男「鷹」1958年、山口県立美術館

常設特別展示

4/17～6/10

生誕90年記念

香月泰男

「シベリア・シリーズ」全作品展

香月泰男の人と生涯を映像や資料などで巡りながら、シベリア・シリーズ全57点を立体的に紹介します。

※料金＝常設料金に含まれる。

※ZENGA展会期中はZENGA展観覧券にてご覧になります。

表紙作品解説

香月泰男「鷹」1958年 油彩・画布 64.8×99.7cm

昭和18年に旧満州国に動員された作者は、敗戦までの2年間をハイラル市にあった第19野戦貨物廠ですごしますが、その間、部隊に迷いこんできた子供の隼がしばらく飼育したあと紐を食いちぎって逃げたという出来事がありました。その思い出を描いたのが、この絵です。隼の「たくましい荒っぽさと優美さを同時に兼ね備えた堂々たる姿、孤独に耐えている者だけがもつような妙な淋しさをたたえる目」にひかれたとも、飛翔力の強さを表現するために隼を鷹に換えて描いたとも作者は書いています。塙の外へと今にも飛び立ちそうな体勢をつくりながら高みから作者の方を見返る鷹のポーズには、強い翼を得て日本に飛んで帰りたいという作者の切実な望郷の思いがこめられているように見えます。(安井)

■関連イベント

美術館講座室にて

統一テーマ「それぞれのシベリア、それぞれの香月泰男」

1 ワークショップ（対象：幼児から一般）13:30～16:00

- 5月5日（土）先生によるワークショップ
（佐々木真治・津室和彦 山口大学教育学部附属山口小教諭）
- 5月12日（土）作家によるワークショップ（荒瀬景敏 画家）
- 6月2日（土）学芸員によるワークショップ

2 シリーズ「自作を語る」14:30～16:00

戯曲「KAZUKI～ここが私の地球」（品川能正）および、ミュージカル「地球へ」（前川和雄・REIKO）の作者が、自分のなかにあるモチーフをどのように表現につなげていったかなど苦心談等を語ります。

- 4月22日（日）「自作を語る I」
「KAZUKI～ここが私の地球」（品川能正）
- 5月19日（土）「自作を語る II」
ミュージカル「地球へ」（前川和雄）
- 5月26日（土）「自作を語る III」
総集編シンポジウム「それぞれのシベリア、それぞれの香月泰男」
（品川能正・REIKO・前川和雄 司会 安井雄一郎）

※参加ご希望の方は、はがき・電話・ファックスで美術館普及課あてにお申し込みください。
定員に余裕があれば当日参加も可能です。

※上記イベントのない各土曜日には、学芸員によるギャラリー・トークを予定しています。



香月泰男「埋葬」1948年、山口県立美術館

4/28～6/5

ZENGA 帰ってきた禅画

—アメリカ ギッター・イエレン夫妻コレクションから—

主催=山口県立美術館・朝日新聞社・NHK山口放送局・YAB山口朝日放送
後援=アメリカ大使館・九州朝日放送・広島ホームテレビ
協力=日本航空 企画協力=浅野研究所

料金/一般1,000(800)円

学生800(600)円

※()内は前売及び20名以上の団体料金

ZENGA

山下裕二氏講演会

「白隠が伝えたかったこと」

4月30日(月・振替休)午後2時～

美術館講座室にて

日本美術史を、これまでの硬直した枠組みから解き放つべく、現在、もっとも大胆にして先鋭な批評活動を展開している美術史家、山下裕二氏(明治学院大学教授)。

『岡本太郎宣言』、『日本美術応援団』、『京都、オトナの修学旅行』などの著書を通じて、われわれに新たな絵の見方を提案し続けている山下氏が、「今、俺がイチバン偉いと思っている絵描き」である白隠について、思いのたけを語る。かなり刺激的な講演会になるはず。ふるってご参加下さい。

学芸員によるギャラリー・ツアー

毎週日曜日、午後1時30分～



白隠「通真」1767年、清見寺

私にとって、この展覧会の最大の見ものは、白隠が描いた清見寺の「達磨」と、正宗寺の「大達磨」。「大達磨」は、その名の通り、巨大な達磨の絵。高さが2メートル以上もある。左の写真が、「達磨」の方。まあ、ご覧あれ。とにかく、どちらとも凄まじい迫力。絵の前に立つと、画中の達磨に睨まれて、身が竦むような気がする。かなり「怖い」。白隠は、禅の世界では「五百年に一人の天才」といわれている高僧。そこまで偉い人は、怖くても当然。偉くて怖い人の絵は、やっぱり偉くて怖い。でも、さすがに段違いに偉い人だから、怖いばかりじゃない。やさしい絵も、面白い絵も、たくさんある。幅が広い。それから、もうひとつの見ものが、南天棒の絵。雲水さんが、托鉢のために行列して歩く絵なんか、すごくカワイイ。見ものは他にも色々あって、こんな展覧会「滅多に見られるもんじゃありません」。(荏開津)



南天棒「雲水托鉢」1924年、Gitter-Yelen Collection



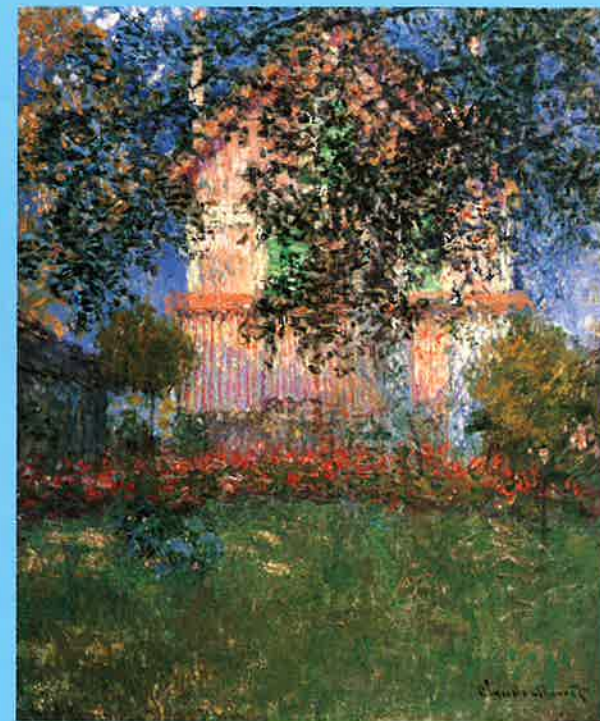
南天棒「達磨」、Gitter-Yelen Collection

展覧会報告

7/5～9/30 クロード・モネ展

印象派を代表する巨匠、モネの作品約60点を一堂に展示し、初期から晩年にいたる全画業を紹介します。この展覧会は全国で山口県立美術館だけの開催となります。会期中は開館時間を延長するとともに、無休でご来場をお待ちしております。

料金 1,200(900)円
※()内は前売及び20名以上の団体料金



クロード・モネ「アルジャントウイユのモネの家」

主催=山口県立美術館・読売新聞西部本社・NHK山口放送局・NHKちゅうごくソフトプラン・山口放送株式会社・山口市・財団法人山口県教育財団
協力=日本航空/協賛=山口セキスイハイム(株)・(株)NTTドコモ中国・中国電力(株)／企画協力=浅野研究所

12/18～²⁰⁰²1/27 雲谷等益 —寛永期の雪舟流—

江戸時代初期の萩藩御用絵師、雲谷等益の画業の全貌を、同時代の「雪舟流」の画家たちの作品をまじえながら紹介します。

料金 一般730円/学生510円

主催=山口県立美術館



雲谷等益「瀟湘八景図屏風」部分、山口県立美術館

2001-2002

特別展

4/28~6/5

ZENGA 帰ってきた禅画

-アメリカ ギッター・イエレン夫妻コレクションから-

秋吉台国際芸術村レジデンシー事業

5/29~6/10 2001-2002招聘作家展

全館休館 6/11~7/4

展覧会準備のため全館休館します。

7/5~9/30

クロード・モネ展

全館休館 10/1~10/22

展覧会準備のため全館休館します。

第5回やまぐち県民文化祭

10/25~11/11 第55回山口県美術展覧会

12/4~12/9 第54回学校美術展覧会

12/18~²⁰⁰²1/27

雲谷等益-寛永期の雪舟流-

2/7~2/10 山口県立大学卒業制作展

2/14~2/17 山口大学卒業制作展

2/21~2/24 山口芸術短期大学卒業制作展

3/5~3/10 二紀展

schedule

山口県立美術館 平成13年度年間スケジュール

常設展

4/17

生誕90年記念 香月泰男

「シベリア・シリーズ」全作品展

6/10

10/23

雪舟

11/4

柳沢信

小林和作

12/9

現代の萩焼

12/11

シベリア・シリーズ I

中平卓馬

1/15

1/17

松田正平

2/5

荒木経惟

古萩と置物

2/24

シベリア・シリーズ II

山口の
仏教美術
から

2/26

牛陽茂雄

4/7

Information

■休館日

毎月曜および年末年始(12月28日~1月3日)
ただし、4月30日(月)、12月24日(月)、1月14日(月)
は開館、12月25日(火)、1月15日(火)は休館
「モネ展」会期中は無休

■開館時間

9:00~17:00(入館は16:30まで)
「モネ展」会期中は9:00~18:00(入館は17:30まで)

■料 金

常設展: 一般190(160)円 学生120(100)円
()内は20名以上の団体料金
特別展: 別途に定めた料金

常設展・特別展ともに18歳以下と70歳以上および高等
学校、盲・聾・養護学校に在学する方等は無料。
教育文化週間11月1日~11月7日は全ての方が無料。



山口県立美術館
The Yamaguchi Prefectural
Museum of Art
〒753-0089
山口市亀山町3-1
TEL: 083-925-7788
FAX: 083-925-7790